

第23号
(通巻第67号)
平成29年12月

特別支援教育 ほっかいどう

Journal of Special Needs Education in HOKKAIDO

A green silhouette map of Hokkaido, Japan, is centered on the page. The text '特集' is overlaid on the map.

特集

北海道の特別支援教育の今

～特別支援教育の本格実施から11年目を迎えて～

北海道立特別支援教育センター

特別支援教育ほっかいどう (通巻第67号)

特集

北海道の特別支援教育の今

～特別支援教育の本格実施から11年目を迎えて～

巻頭言

北海道の特別支援教育の今とこれから

北海道立特別支援教育センター所長 木村浩紀

連載1

(12月発行)

町との連携協定と模擬株式会社設立の取組

北海道今金高等養護学校 校長 高嶋利次郎
北海道今金高等養護学校 教諭 金子巨喜

連載2

(12月発行)

障がい者スポーツの期待の星～トップアスリートへのインタビュー～

北海道札幌あいの里高等支援学校 第2学年 伊藤友里

連載3

(1月発行予定)

職業学科を設置する知的障がい特別支援学校における特色ある取組(仮)

北海道新得高等支援学校 教諭 平田昌也
北海道釧路鶴野支援学校 教諭 松田久恵

連載4

(2月発行予定)

就労支援から見る自立と社会参加に向けた取組(仮)

社会福祉法人北海道リハビリ

連載5

(3月発行予定)

北海道特別支援学校のスポーツ活動を支える(仮)

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会
理事長 小野寺眞悟

連載6

(4月発行予定)

地域における多様な教育ニーズに応じた市町村の取組(仮)

詳細については調整中

連載7

(5月発行予定)

在宅就労における特別支援学校の取組(仮)

北海道八雲養護学校 教諭 塩本岳彦

「北海道の特別支援教育の今とこれから」

北海道立特別支援教育センター

所長 木村浩紀

1 はじめに

特別支援教育がスタートして11年目となり、また、学習指導要領が改訂されるなど、日本の教育において、特別支援教育は大きな転換期を迎えております。北海道においても、新たな「北海道総合教育大綱」が10月に策定され、来年4月から施行されます。また、新しい「特別支援教育に関する基本方針」についても同様に施行される予定です。

「特別支援教育ほっかいどう第23号」では、「北海道総合教育大綱」の基本方針で示されている「北海道に思いを寄せる（ふるさと北海道への愛を育む）」、「社会で自立し共に支え合う（力強く生き抜く力を育む）（子どもの学びの環境を整える）」、「未来を切り拓く（社会で活躍し続けられる人を育む）（北の大地で輝き続ける人を育む）」から、「社会参加・貢献を目指した取組」、「地域の支援体制の充実に向けた取組」、「障がい者スポーツを通じた取組」の3つの視点でまとめ、いくつかの事例を紹介することで、北海道の特別支援教育が取り組んできた成果と今後の展望について検討することとしております。

2 今後の展開

これからの時代は、AI（人工知能）が発達し、多くの職業に変化を及ぼすと言われております。

また、ここ数年の様子を見ると、人手不足による人材確保はどの業界にとっても大きな課題です。そのような中、私は障がい者が、そのよさや持てる力を生かし、地域で活躍することについても大いに期待したいと考えています。私が講演等で出向いた地域でも、すでにいろいろな取組がされていて、特別支援教育を受けてきた子どもたちが大人になって生き生きと活躍している様子を伺うことができました。

「社会参加・貢献を目指した取組」では、自宅勤務（テレワーク）による仕事の様子を直接拝見したり、当事者から具体的な内容や方法について伺ったりすることができました。ICTを活用し、全国の仲間と仕事をしている様子は、障がいの有無にかかわらず、グローバルな時代を生きていく姿を象徴しており、今後の可能性を感じるすることができました。

「地域の支援体制の充実に向けた取組」では、教育委員会が保健福祉部等と連携して、最適な学びの環境を整える努力をしている取組を伺うことができました。誰かが強いリーダーシップをもって動かすことで、短い期間でもつながりができ、担当者が代わっても次へのステップに進むことができると感じるすることができました。また、特別支援学校と町が連携して、障がい者が地域で活躍する取組についても伺うことができました。就労支援や通年雇用、住宅環境の整備、作業学習、現場実習などについて連携協定を結び、実習や卒業後の就労支援にも積極的に取り組んでいる様子は、特別支援教育の域を超え、これからの町づくりや地域の在り方を考えさせられました。

「障がい者スポーツを通じた取組」では、障がい者スポーツアスリート御本人へのインタビュー談話や、サッカーなどの大会を通して、全道の特別支援学校の生徒が活躍する取組を紹介する予定です。障がい者を大切に、生き生きと輝く場面をつくらうとする取組から、共生社会の実現に向けた熱い思いを感じました。

結びになりますが、広域な北海道の特別支援教育の一層の充実に向け、参考となる事例を紹介することで、私たち自身が自分のこととして、それぞれの地域で何ができるかを考えていく一助になれば幸いです。当センターとしても皆様方の御示唆を頂きながら、北海道のために様々な活動を展開してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



町との連携協定と模擬株式会社設立の取組

北海道今金高等養護学校 校長 高 嶋 利次郎
教諭 金 子 亘 喜



1 はじめに

学校側の「卒業生の今金町内のユニバーサル農業への就労促進」という願いと、今金町商工会の「町の基幹産業の農業と商工業のワークシェアによる通年雇用、新産業創出・定住人口の増加」を図りたいという願いから、平成26年度に今金町商工会が「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業調査研究事業」の補助金を得て、「『にぎわい！今金』コミュニティビジネス創出による地域力再生プロジェクト事業」（以下「商工会事業」）を開始することになりました。

本事業の構成団体は、今金町商工会、今金町、JA今金町、北海道今金高等養護学校、社会福祉法人光の里です。その後、TTNコーポレーション、(株)TAISHIが加わりました。そして、今金町は、平成27年7月に今金町商工会、TTNコーポレーションと連携協定を結んで取組を推進し、12月には「今金町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン及び総合戦略」を策定し、その基本戦略の基本目標のトップに「障がい者が地域産業の担い手としての活躍の場づくり」を掲げ、障がい者雇用の推進に本格的に取り組んでいます。

2 特別支援学校卒業生の就労支援及び自立支援に関する連携協定

商工会事業を進める中で、関係機関の連携や調整がより効果的に行え、継続した連携と支援がスムーズに行われる関係機関相互の「関係性」に社会的な枠組みを付与しようとする気運が、平成27年度から関係機関の間で高まり、今金町では本校の生徒の実習や卒業生の就労支援、自立支援にかかわって、本校と連携協定を結ぶ方針を決定し、平成28年10月4日（火）に調印式が今金町役場で行われました。

調印式には外崎秀人町長と本校校長が出席しました。協定締結に先立ち、中島光弘副町長から経過及び主旨について報告がなされた後、町当局幹部職員と本校教頭が見守る中、外崎町長と本校校長が署名し、協定書が交わされました。連携協定の目的は、今金町の特別支援学校高等部生徒の就労に関する専門的な知識及び技能の向上を図るとともに、就労支援並びに自立支援に向けて包括的な支援体制を整えることです。

協定書では、6項目の事項について連携協力することとしています（表1）。

本校では、連携協定に基づき、実習や就労、生活自立等に関する課題を検討する場として、平成29年度から本校学校評議員会が「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」を兼ねることとしました。

表1 協定事項

- | |
|---------------------------------------|
| (1) 作業学習及び現場実習に関すること |
| (2) 校内作業学習等における教員及び生徒への技術指導及び助言に関すること |
| (3) 就労支援及び通年雇用に関すること |
| (4) 居住環境の整備に関すること |
| (5) 雇用と生活の自立に向けた支援に関すること |
| (6) その他相互に連携協力することが必要と認められる事項 |

<連載1>町との連携協定と模擬株式会社設立の取組

学校評議員は、大学教授、今金町議会議員（障がい者雇用事業者）、今金町総務財政課長、今金町商工会事務局長、TTNコーポレーション取締役、道南地区農協青年部協議会理事、陶芸作家で構成され、在校生と卒業生の実習や作業に関する課題と解決策の検討に取り組んでいます。



写真1 連携協定調印式

3 模擬株式会社 IMAKANE FACTORY～社会に開かれた教育課程～

本校は、窯業科・産業科、農業科、家庭総合科・生活家庭科の5学科を開設し、学校教育目標を達成するため、生徒の実態に応じて作成した「今養版キャリアプランニング・マトリックス」に基づいて教育課程を編成し、「キャリア教育」と「社会に開かれた教育課程」の充実に努め、「共学共に学ぶ 共創共に創造する 共生共に生きる」の3つの視点から、生涯にわたるキャリア発達を目指した「キャリアアップハイスクール」の実現に向け、地域に根差した学校教育の創造に取り組んでいます。

特に、産業構造の変化や生徒の障がいの多様化、就労先が流通・サービス業に広がるなどの変化を踏まえ、生徒に育成すべき力として、主体的に業務遂行上の課題を発見し改善する能力、消費者ニーズに応じた商品開発力、組織が目指す目標に向かって努力し貢献する能力や態度を育て、職業生活への円滑な移行を推進する必要があると考えています。

そこで、平成29年4月のPTA総会において、「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」の設立を決定し、生徒全員が一人500円の出資金をPTAから受けて模擬株主及び社員となりました。代表取締役社長はPTA会長であり、総務部、営業部、生産部の3部体制で、営業部と生産部には、各学科の2・3年生から班長が1名ずつ選出されて所属しています。

【第1回学科全体交流会（模擬株式会社 IMAKANE FACTORY 総会）】

平成29年6月7日（水）に「第1回学科全体交流会」兼「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY 総会」を行いました。

営業部長の教務主任から、株式会社の定款や組織、年間の学習計画の説明がありました。窯業科・産業科、農業科、生活家庭科・家庭総合科の代表生徒が、学科の年間の生産計画と販売計画を発表し、専門家（陶芸家）の



写真2 模擬株式会社設立総会



写真3 窯業科・産業科の取組の説明

と専門家（陶芸家）の指導を受けながら製品生産の工夫をすることや、北海道八雲高等学校総合ビジネス科と「ショコラクッキー」の味とパッケージを共同開発することなどが報告され、承認されました。窯業科・産業科では、陶芸の専門家（窯業アドバイザー）から学校祭で販売する商品の絵付けの方法を学んでいること、農業科では農家（農業アドバイザー）から指導を受けることが紹介されました。

【模擬株式会社 IMAKANE FACTORY の成果】

職業学科の生産、商品開発、商品管理、販売、受注作業を模擬株式会社で行うことで、会社の仕事という意識の下、消費者ニーズを考えて生産、商品開発等に意欲的に取り組み、次のとおり深い知識や技術を習得して質の高い製品や商品開発ができるようになりました。

○ 専門教科の学習（自学科作業、他学科作業）～共に創造する

- ・ 模擬株式会社における窯業製品の生産の工夫（協同学習）

NHK室蘭放送局内のカフェや町内にある飲食店から、キーマカレー用の楕円皿や大皿の生産を受

<連載1> 町との連携協定と模擬株式会社設立の取組

注しました。受注品の生産方法を協同学習の方法で話し合うとともに、作業の目的や作業グループ、作業担当者の氏名、作業分担、作業の流れなどを分かりやすく示した「組織図」を活用しながら、各担当者を決めたり、報告する際の連絡系統を話し合ったりして、製品の生産を進めました。

また、「個々に与えられた責任を果たすことで全体の仕事が成り立っていること」、「自分の仕事が終わったら周りのために動くこと」という協働の考え方が身につくよう取組を進めました。

その結果、「生徒の生産に対する考え方が変化し、お客様のことを考えた上で、組織の中での自分の役割を考えて行動できるようになった」、「高品質な製品を生産できるよう、より深い知識や技術を意欲的に習得するようになった」、「障がいの自己理解が深まり、自己の長所を生かし、責任ある業務遂行を意識できるようになった」などの生徒の変容が見られました。

- ・ 専門家（陶芸作家）の指導・助言による新製品開発（地域学校協働活動）

陶芸作家である石川久美子氏（学校評議員）に指導を受け、流行を取り入れながら、全ての生徒が絵付けに取り組むことができる新製品づくりに取り組みました。製作場面では、協同学習の方法を用いて、1枚の皿の作業工程をどのようにするか話し合い、「同じチーム内（3人1チーム）でも、細かな作業が難しい生徒はマスキングテープを貼る」、「細かな作業が得意な生徒は筆を使う」、「慣れてきたら役割を交代する」など、生産工程を工夫し、生産の効率化を図りました。

- ・ 高特福連携による商品開発～交流及び共同学習（地域学校協働活動）

本校家庭総合科が、北海道八雲高等学校総合ビジネス科及び卒業生の就労先でもある「多機能型事業所ワークショップいまかね」と共同で、地域の定番土産商品となるよう「ショコラクッキー」の開発を行いました。本製品は、北海道高等学校商業教育フェアや本校学校祭で販売するため、両校が「合同商品企画会議」を開催し、それぞれの購買層を考慮し、3種類の味の組み合わせやパッケージデザイン、商品名（「チョコっとひといき」）を検討しました。9月に行われた北海道高等学校商業教育フェアにおいて、本校家庭総合科1年生2名は、北海道八雲高等学校総合ビジネス科2年生とともに、2日間で120個以上販売することができました。北海道八雲高等学校の生徒との共同商品開発を通して、本校の生徒はプレゼン力や話し合う力を高めることができました。

○ 共通教科（職業・家庭）の学習（地域学校協働活動）～共に創造する

生徒の進路動向とリンクさせ、共通教科の学習を学科共通の作業学習（環境整備、流通・サービス、食品加工）として実施しています（デュアル実習Ⅰ）。毎月1～2回程度、役場での町内会配布物の仕分けや総合福祉施設での車いす清掃、高齢者デイサービスのレクの補助などを行っています。

この活動により、関係機関の職員の業務量が軽減され、職員や利用者から感謝の言葉をいただくことで、自己有用感の向上及びサービス業務等のスキルアップにつながっています。

○ 「地域グループワーク」の学習（地域学校協働活動）～共に生きる

地域の商工会等の関係団体が主催する7つのイベントの企画・運営に本校生徒が参加し、イベントスタッフの一員として、業務を補助する活動に取り組んでいます。生徒は地域の一員としての自覚が深まり、町民から感謝され、期待されるようになり、様々なイベントへの協力要請も増加しています。



模擬株式会社ロゴマーク

このように、本校では、町との連携協定に基づいて地域の専門家や関係機関と連携した地域学校協働活動の推進を図り、協同学習を通して、製品の質の向上と新製品の開発・販売を行い、地方創生と共生社会の担い手となる人材の育成に努めています。

「北海道今金高等養護学校Webページ」→ <http://www.imayou.hokkaido-c.ed.jp>



障がい者スポーツの期待の星～トップアスリートへのインタビュー～

北海道札幌あいの里高等支援学校 第2学年 伊藤友里

1 はじめに

「スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア」フィギュアスケート競技 日本代表選手 伊藤 友里さんの紹介をします。

伊藤さんは、平成29年3月にオーストリアで開かれた知的障がい者の国際スポーツ競技会「スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア」のフィギュアスケート競技に出場し、見事、銅メダルに輝きました。今回、伊藤さんが在籍している北海道札幌あいの里高等支援学校に訪問し、インタビューを行いましたので、その様子を紹介します。

2 トップアスリートへのインタビュー

所 員：はじめまして。伊藤さん、どうぞよろしく申し上げます。

伊藤さん：こんにちは。よろしく申し上げます。

所 員：初めに、御自身や学校での学習のことを聞かせてください。

伊藤さんの出身地はどこですか。

伊藤さん：札幌生まれです。その後、帯広に引っ越しをして、小学校2年生のときに札幌に戻ってきました。

所 員：学校で好きな教科は何ですか。

伊藤さん：作業学習が好きです。特に、焼き菓子やパンづくり、縫工が好きです。先日の学校祭でも、くるみパンやレーズンパンなどを販売しました。

所 員：パンづくりで、難しいことは何ですか。

伊藤さん：形を整えることが難しいです。でも、学校祭のときに、お客さんが喜んで買ってくれたので、とても嬉しかったです。

所 員：家でお菓子をつくったことはありますか。

伊藤さん：一度、パウンドケーキをつくりました。おいしかったです。

所 員：今、学校で一番楽しいことは何ですか。

伊藤さん：英語です。学校で習うときの教科は「グローバルコミュニケーション」(*注)と言います。週1回、授業があります。スペシャルオリンピックスでオーストリアに行ったとき、英語で会話をしたので、今後のためにも勉強したいです。英語のほかにも、ドイツ語を勉強して、「おはようございます」、「ありがとうございます」、「おやすみなさい」が話せるようになりました。

(*注) グローバルコミュニケーション：本校で行われる、主に外国語と情報の教科を合わせた指導の形態の名称です。国際社会や情報社会に対応できる基礎的な力を育てることを目的に、タブレット等の情報機器を活用したり、ALTによる学習を行ったりと、国際文化・情報処理に関することを実践的に学んでいます。



写真1 北海道札幌あいの里高等支援学校

<連載2>障がい者スポーツの期待の星～トップアスリートへのインタビュー～

所 員：それでは、フィギュアスケートの話題に入りたいと思います。フィギュアスケートはいつ頃から始めましたか。

伊藤さん：フィギュアスケートは、帯広にいるとき、3歳から始めました。フィギュアスケートを始めたきっかけは、テレビでフィギュアスケートの特集をしているのを偶然に見て、「自分からやってみたい」とお母さんに言ったみたいです。

所 員：帯広でフィギュアスケートを始めたとき、誰かに教えてもらったのですか。

伊藤さん：はい。帯広のクラブでフィギュアスケートを始めたのですが、とてもよい先生に出会うことができました。帯広では、小学校1年生のときに大会に出ました。今年でフィギュアスケートを始めて14年目になります。

所 員：今、練習はどのくらいしていますか。

伊藤さん：月5回程度、練習をしています。時間は1時間半ぐらいです。練習はすごく楽しいです。

所 員：スピンの得意と聞きましたが、いつ頃からできるようになりましたか。

伊藤さん：5歳頃からできるようになりました。スピンができるようになるためには、基礎をしっかりと固める必要があります。基礎づくりは帯広のときの先生が教えてくれました。また、元全日本フィギュアスケート選手の杉田秀男先生が、「友里はスピンが得意なので、大会では、演技にスピンを取り入れることで、高得点を取ることができる」とアドバイスをしてくれました。そのおかげで本番では3位に入ることができました。



写真2 大会時の演技

(写真提供：スペシャルオリンピックス日本)

所 員：銅メダル獲得おめでとうございます。銅メダルを獲得したときの感想を聞かせてください。

伊藤さん：すごく嬉しかったです。世界大会で私のカテゴリーには7人の選手が出場していました。カナダやイギリス、デンマークなど、世界各国から出場していました。アジアからは、私一人でした。

所 員：予選通過時は何位だったのですか。

伊藤さん：予選は6位でした。そこから逆転して3位に入ることができました。予選でミスがなかったら、2位に入れていたかもしれません。

所 員：伊藤さん自身は、3位という結果をどのように感じましたか。

伊藤さん：金メダルは難しいかもしれないと思っていました。銀メダルか銅メダルを取ることができればいいなあと思っていましたので、大会前の目標を達成することができました。

所 員：世界大会の銅メダルを取ったときはどのような気持ちでしたか。

伊藤さん：とても嬉しかったです。メダルは重かったです。

所 員：スペシャルオリンピックスの予選大会は、どのように行われますか。

伊藤さん：ナショナルゲーム（全国大会）が予選を兼ねていて、金メダルを取ることが世界大会につながります。新潟で行われた全国大会で金メダルを取ったので、スペシャルオリンピックス世界大会に参加することができました。

所 員：スペシャルオリンピックスは、オーストリアで行われたと聞きましたが、街の様子を見たり、おいしいものを食べたりする時間はありましたか。

伊藤さん：最初、ウィーンに2泊してからグラーツに行きましたが、ウィーンでは、見た目も味も「なんだろうこれ？」と思う食べ物がいっぱいありました。チーズとかパンは、すごくお

＜連載2＞障がい者スポーツの期待の星～トップアスリートへのインタビュー～

いしかったです。

所 員：衣装は、どのように用意しているのですか。

伊藤さん：衣装は、お母さんの手づくりです。

所 員：フリーの演技の時間は何分ですか。

伊藤さん：演技の時間は2分間です。2分間続けて演技するのは、体力面で大変です。次からは大会のレベルが上がり、2分30秒に演技の時間が伸びるので、もう30秒続けられる体力をつけるのがこれからの課題です。

所 員：今までスケートをずっと続けてきて、よかったと思うことはありますか。

伊藤さん：世界大会や日本大会に出られたことです。スペシャルオリンピックスのことができたことがよいきっかけになりました。小学生のときに、スケートの先生が替わり、演技で厳しく注意されたことがあって、「辞めたい」という気持ちになったときもありました。今日まで、お母さんに励まされながら続けてきましたが、辞めずに続けてきたことで、銅メダルを取ることができたので、続けてきてよかったと思いました。

所 員：次の大会の予定を教えてください。

伊藤さん：2020年、東京オリンピックの年に大会があります。開催地は分かりませんが、日本で大会があります。日本で大会なので、3年後のこの大会に出場することを目標にしています。今から、どんなライバルが出てくるのか気になります。

所 員：フィギュアスケートについて、これからどのようなことに挑戦してみたいですか。

伊藤さん：3回転ジャンプができるようになりたいです。今はシングル（1回転）なので、これから、2回転、3回転と挑戦していきたいです。フィギュアの選手では、宇野昌磨選手や武田奈也さんが好きです。宇野選手は顔が可愛いので好きです。去年は、安藤美姫さんのアイスショーを見に行きました。

所 員：将来、どのような職業に就きたいかなど、伊藤さんの夢を教えてください。

伊藤さん：将来は、お菓子をつくる仕事をしている作業所などで働きたいです。

所 員：最後に、伊藤さんにとってスケートとはどのようなものですか。

伊藤さん：自分の中で、『自信をもってできるスポーツ』だと思っています。

所 員：以上でインタビューを終わります。どうもありがとうございました。

伊藤さん：ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします！



写真3 大会時の演技
(写真提供：スペシャルオリンピックス日本)



写真4 インタビューを終えて
(学校にて撮影)

「北海道札幌あいの里高等支援学校Webページ」

→ <http://www.ainosatokoshi.hokkaido-c.ed.jp>